

2018年5月15日

電力広域的運営推進機関 調整力及び需給バランス評価等に  
に関する委員会 事務局 御中

株式会社 エネット 高橋容は、都合により、2018年5月16日（水）開催の第28回 調整力及び需給バランス評価等に関する委員会を欠席いたしますが、事前送付版資料を拝見し、コメントをお送りさせていただきます。

ご査収の程よろしくお願ひいたします。

<28回 調整力及び需給バランス評価等に関する委員会資料（事前送付版）に関するコメント>

議題（3）電力需給検証報告書について

- ・ 資料4-2 4ページ 第1章 2017年度冬季の電力需給の結果分析 2. 需要 の冒頭で各エリアの冬季最大需要日の需要実績と、事前に想定していた厳寒H1需要との比較を行っているが、9ページ3. 供給では、2017年度冬季の全国最大需要日（2018年1月25日 18時～19時）供給力と事前に想定していた厳寒H1対応供給力を比較している。
- ・ 報告書では、想定と実際に起った実績を比較することを考えれば、2. 需要では、2017年度冬季の全国最大需要日（2018年1月25日 18時～19時）の需要実績と想定を比較すべきではないか。
- ・ 2. 需要の分析で、各エリアの冬季最大需要日の需要実績を使用していることに関連し、5ページ（2）需要増減の主な要因に記載の気温影響、DRは、各エリアの冬季最大需要日の合計値を使用しているのか。各エリアの冬季最大需要日の合計値を使用している場合、各エリアでの冬季最大需要日の不等時性を考えれば、気温影響やDRを合計するのは意味がないのではないか。また、「その他」については、単純な引き算（合計 -（気温影響 + DR））の数字が記載されていると思われるが、「その他」の内、GDP及びIIPの伸び率の上方修正が主な要因であれば、内数として影響を定量的に示していただきたい。
- ・ 22ページ 第2章 2018年度夏季の電力需給の見通し 3. 2018年度夏季の供給力の想定（1）原子力発電では、2018年度の供給計画の提出時点（2018年3月1日）での数値を使用するルールになっていることは承知しているが、現時点で 2018年度夏季に見込める供給力がわかるならば最新データを使用すべきではないか。
- ・ 現在見込める原子力発電を考慮しなくとも供給予備率を確保できるので本委員会では特段問題がないのかも知れないが、原子力発電の稼働を前提に事業を行っている事業者がいるとすれば、需給バランス検証と齟齬があり、多少なりとも卸電力取引市場等に影響を及ぼすことになるのではないか。

以上

株式会社 エネット  
高橋 容